

たてしな歴史研究会

会員 田中浩江

「たてしな歴史研究会」は今年で9年目。立科を中心に周辺地域の歴史を勉強したいと、集まった仲間達で、最高齢90歳。

こんな所にも、高齢化社会！だなどと、思わないでください。これは「高齢化」ではなく「長寿化」なのです。人生を楽しめる時間が増えたと言っ事です。

地域の活性化とは、そこで暮らす人々を元気にする事。つまり「人の活性化」でもある訳です。そして人を元気にするのは、やはり「人」でもあります。と言っ事で、今年の町民歴史公開講座は、立科町が生んだ教育会の偉人「保科五無齋百助」をテーマにしました。

正直者で、不平等が嫌いで厳しい一方で、子どもたちが大好きな愛情深い教育者でした。そして時代の風潮で、今では当然正しい事も、当時は様々な障害に遭い、中断されながらも諦めることなく、

社会のため、生徒のため、地域のために努力を惜しまなかった人。これが立科町の地が生んだ人物です。

前例のない大雪で日本中の交通・経済など主だった機能がマヒし、至る所で多くのイベントが中止になる中、2月

平成25年度(2014・春)第8回町民歴史公開講座
保科五無齋百助
 入場無料 入室自由
 期日 2014年 2月22日(土) 午後1時~4時(予定)
 会場 立科町老人福祉センター(立科町役場前西側)
 (老人福祉センターおよび役場駐車場をご利用ください)
 講演内容
 1 保科五無齋百助の経歴・概論
 竹花初雄先生
 保科五無齋百助の研究者としての第一人者
 2 保科五無齋百助 紙芝居
 お話/イラストの会
 紙芝居で、わかりやすく郷土の偉人や偉業を広げる活動中
 3 鉱物学者としての保科五無齋百助
 学芸員 田辺純輝
 長野市戸隠地質化石博物館学芸員
 五無齋教育を博物館で実践中
 平成の保科五無齋百助先生
 4 保科五無齋百助を育てた環境
 作家 卯月雲花菜
 歴史小説「教育のひと 保科五無齋」の著者
 5 立科町教育委員会保管の五無齋資料
 一般公開
 主催：たてしな歴史研究会
 後援：立科町教育委員会、立科町文化財保護委員会



22日に行われた「保科五無齋百助」の歴史講座。「雪掻きの不十分な中、これだけ集まれば大したモンだ」と用意した、50脚の椅子も足りなくなるほどの集客がありました。それほど「保科百助五無齋」が今なお多くの人々に愛され、人気

が高いことを思い知らされたところです。

地域出身の、こうして一生懸命に生きた人物を知ると私達も「頑張ンベえ」と胸が熱くなり、元気になるものです。

毎年の町民歴史公開講座は、たてしな歴史研究会による手作りで開催しています。企画から講師の手配、派遣申請書の作成に会場設営や当日受付。開催費用も、会員の年会費からやり繰りしています。

大変な事もありますが、こうして歴史講座を開催することによって、ここで暮らす「人」が元気になれば、それは地域自身が元気になって、活性化すると言っ事でもあります。

私達は、好きな「歴史や郷土史」を通して、この地域を元気にできたら、と考えています。これからも胸の熱くなる様な歴史講座を目指します。同時に、一緒に活動して下さる人も募集しています！一緒に元気になりませんか？

アブリの会

会長 大森富康

田舎暮らし…澄んだ空気の元で健康な毎日…などの言葉が飛んだ十数年前、「そんなに田舎暮らしが良いものか？田舎の我々が試してみよう」という発想の下、手身近な農業を絡めた仲間が集まり「アブリの会」を十六名でスタートした。



会則の目的には「新しい農産物の研究を重ね、立科ブランドとしてデビューする」と意気込みも大きかったが、借用した畑の除草対応に時間を費やしたり、高価な苗や種が根付かないなど、気候との対応にも苦慮し、思うに任せず今日に至っている。「栽培した野菜を販売して、毎年大きな収穫祭を」も計画に入っていたのだが、販売どころか会員で持ち帰れる数量もおぼつかないのが実情。

収穫と言えば「長ネギの茶色のサビは、みかんの皮で予防できる」「ボカシ堆肥は粘土土をサラサラにする」くらいかな。冬季は、栽培した安心の大豆を使っての納豆づくりや耕福館のインストラクターのご指導をいただいての豆腐作りなど、男の料理にも挑戦している。「田舎暮らしも展開次第で楽しいもんだなー」を感じながら、借用畑も移動しながら、各自で培った農業のアレコレを持ち寄りの活動ではあるが途切れることなく、今年も汗を流す会です。

地域づくりへのグループ紹介